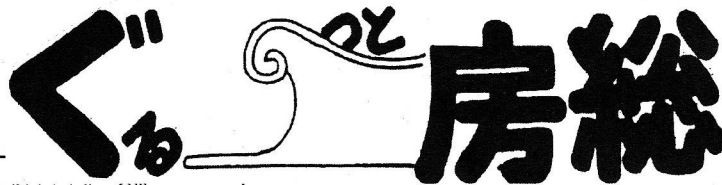


〒260-0031 千葉県千葉市中央区新千葉2-17-6
サンコート新千葉102号

TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263

発行責任者：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

2010年10月10日発行 第58号 1部100円 E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp



子どもの権利条約 国連・子どもの権利委員会
第3回日本政府への最終所見(懸念や勧告) ー前号に続くー

施策情報
その1

第31条 子どもの休息・余暇・遊び・文化芸術への参加の権利を想起、活動の促進ととりくみの支援を勧告

ー各分野にわたり91節に及ぶ懸念・勧告から、注目する内容と活動に活かすことー

「第3回子どもの権利条約市民・NGO
報告書をつくる会条拡大起草委員
齋藤史夫さんに訊く

◆子ども・市民の自主的活動と共同の発展が子どもの権利を実現する

国連子どもの権利委員会から日本政府への最終所見は、今回で3回目となる審査の積み重ねから日本の子どもの実態の把握と解決の方向への示唆が深められています。ところが、日本政府には子どもの権利実現に向けた認識と行動の発展が見られないのは残念です。

■深刻化する子どもの困難と子どもの権利実現の方向

今回の所見では、子どもの貧困の増加と効果的でない対応(パラグラフ19)、「驚くべき数の子どもが情緒的幸福度の低さ」を訴えていること(60)、変わらぬ「高度に競争主義的な学校環境」が「いじめ、精神的障害、不登校・登校拒否、中退および自殺に寄与しうる」と(70)など、深刻化する日

本の子どもの困難が指摘されています。そして、これらの現状の解決のために、「子どもの権利に関する包括的な法の制定」(12)・

「条約の実施を監視するための独立した機構」の設置(17)など政治がなすべきこと、企業活動による悪影響からの保護(27・28)、子どもと親・子どもと教師との関係への注目(60)、市民社会との共同(25・26)など、多面的・総合的に解決の方向を勧告しています

■休息・遊び・文化の重視、子どもの自主的活動の発展が必要

今回の所見の特徴のひとつは、「子どもの休息、余暇および文化的活動に関する権利について締約国政府の注意を喚起する。子どもの遊び時間ならびに、公的場所、学校、児童福祉施設および家庭における自主的活動を促進する先導的取り組みを援助すること」(76)と、子どもの権利条約第31条について、初めて独立した項目として提起したことです。

子どもの毎日の生活のなかに休息・遊び・文化をしっかり位置づけること、子どもたちが自分の生活の主人公となって活動することを「情緒的幸福度の低さ」と指摘されている状況

を変えていくための大切な柱としていくことが必要でしょう。

■求められる「市民社会との共同」

そして、今まで以上に、条約実施のすべての段階で「市民社会との共同」が必要であることが強調されています(25・26他)。子どもの権利の実現には、子どもNPOや子ども劇場などの市民社会の活動(民間の活動・市民団体NPOなどの活動)が重要な役割を担っており、そして、国・地方の行政と市民社会との共同の発展が求められているのです。

政府による包括的な行動が不十分な状況のもとで、毎日の生活の場から子ども・市民が主体となった活動を発展させながら、日本のあり方の転換へとつながる共同を実現することが今何よりも必要とされているのです。

(所見仮訳 福田雅章・世取山洋介)

※齋藤史夫さん 早稲田大学大学院文学研究科教育専攻博士後期課程、埼玉純真短期大学講師
『子ども白書2010』編集委員会事務局長

※「パラグラフ」用語説明

一般的には段落、節の意味です。日本語で使われる段落と異なるため、ここでは「パラグラフ」とした上で数字をつけています。

◆ どんな理由でこの計画を作ったのでしょうか

千葉県では、平成19年に多くの県民の方に参加していただき、「千葉県教育の戦略的なビジョン」を策定し、年度ごとに重点的な施策を決めて取り組んでまいりました。しかし、本県の教育には学力向上、豊かな心と健康やかな体の育成、働く意欲の向上、ルールやマナーを大切にす意識の育成など多くの課題があります。そこで、有識者の意見を伺い、この計画を策定して日本をリードする教育県、「教育立県ちば」を目指していくこととしました。

◆ 千葉県は次の世代の子どもたちにもどんなことを期待していますか。

千葉県の子どもたちには、早寝早起き、読書好きで全国トップレベルの体力など、良い点がたくさんあります。こうした良いところをもっと伸ばしてほしいと思います。そして、基礎学力をしっかりとし身に付け、高い道徳性を持ち、豊かでおおらかに、そして自信にあふれた頼もしい大人に育ってほしいと思っています。

◆ 読書県「ちば」の推進は、具体的にどのような取り組みでいきますか。

読書活動は、子どもたちが美しい日本語を学び、感性を磨き、表現力や想像力を伸ばしていくためにもとても大切です。絵本の読み聞かせや紙芝居など小さいうちから本に親しむ環境づくりが必要です。そこで、地域のボランティアの皆さんとこれまで以上に連携協力して読書活動を進めていきます。また、学校では、図書室の蔵書の充実や司書教諭の配置を進めていきます。

◆ 文化に触れ、親しむ環境づくりもとても大切だと思えます。県内の状況はどうでしょう。

日本が世界に誇る伝統文化や質の高い芸術、一流の演奏など、子どもたちが「本物」に触れることの大切さ

Q&A

千葉県教育振興基本計画 (平成22年3月策定)

「みんなで取り組む『教育立県ちば』プラン」

について千葉県教育庁教育政策課に訊く

5年間の重点的な取り組みに沿って、具体的な予算の裏付けがされ、実施が始まりました。そこで、早速、教育庁を訪問、私達の関心のある施策につき、担当者に質問、文書で回答をいただいたものを掲載します。

施策情報 その2

◆ 対象とした邦楽や舞踊、歌舞伎、能、狂言などの体験型ワークショップと芸術鑑賞事業を併せて行う事業や「ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉」との協働事業などを行ってきましたが、これからも子どもたちが質の高い文化に触れる機会を積極的に提供していきます。

◆ ボランティア活動や体験活動の推進は、子どもたちが自発的に参加することが大切だと思いますが、どのように取り組んでいきますか。

様々な体験は、子どもたちに感動を与え、子どもたちの視野を広げ、考え、判断し、行動する力を育てる上で、とても大切だと考えています。子どもたちが、まちづくりや防災活動、ボランティア活動などに主体的に参加する機会を充実するとともに、ボランティア活動に関する情報提供や相談機能を充実していきます。

◆ 道徳性の向上が大きく取り上げられています。学校でどのように取り組んでいくのですか。

千葉県では、就学前から高等学校卒業までを通して『いのち』のつながりと輝きをキーワードに読書活動や体験活動などを通して児童生徒の内面に根ざした道徳性をはぐくむ教育を進めていきたいと考えています。

今年度は、中学生用と高校生用に映像教材を制作し、来年度からすべての学校の授業で活用できるようにするなど、充実を図ります。

◆ 「親学」についても取り上げています。行政のかかわりが難しい分野だと思えますが、どのように取り組んでいきますか。

教育基本法では、「地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない」とされています。親が自信と誇りを持って子育てを行い、親も子どもと一緒に学び、育っていくことができるよう、市町村や様々な団体等と連携して取り組みます。

◆ 「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」は全国にもあまり例のない取組だと伺っています。

保護者、教員、地域住民が本音で語り合うために、平成12年度から毎年ほぼすべての学校で開催されています。平成21年度は、98%の学校で開催され、参加者総数は約7万6千人となっています。このミニ集会は、教育を核とした新しい地域コミュニティを構築するための大切な取組だと考えています。企画の段階から地域と学校が一体となって運営していくなど、各地域で創意工夫をしていただき、参加者の拡大や内容の充実を進めていきたいと考えています。



少ない紙面の関係上、ここでは、主に「あるべき姿」が解説されています。「子どもへの貧困と格差」が学力やモラルの低下など教育にどのような影響を与えているのか、日本の子どもが「さびしい」「居場所がない」と感じる率がOECD諸国の中で群を抜いて高いのはなぜか、など、子どもの実態から出発した議論やとりくみが必要です。私たちもできることは、他人ごとにしなないで関わっていかなくてはなりません。1000か所ミニ集会に参加してきた人の感想も入り始めました。アンテナを張って、マメに足を運んでいきたいものです。

新たな時代に対応する千葉県文化の振興へ

県文化
振興財団

設立以来初めての文化振興ビジョン策定

―県内の公立文化施設のリード館・千葉県文化会館を管理運営する財団への期待―



平成 22 年 3 月策定

千葉県文化振興財団は、昭和61年に千葉県によって「芸術文化を普及し、県民の自主的文化活動を支援することにより、生きがいとうるおいのある世界に開かれた文化県千葉の建設に寄与する」という目的で設立され、平成22年度で設立25周年を迎えました。県文化会館、青葉の森公園芸術ホール、県東総文化会館の管理運営や、音楽、芸術などの舞台芸術活動、全国に先駆けて設立した千葉県少年少女オーケストラは、今や世界有数のユースオーケストラと呼ばれるまでになりました。

◆ビジョン策定趣旨と策定の経緯◆

社会状況が大きく変わった今、時代に対応した財団の姿を求め、大きな改革に着手して、さらに大きく飛躍する基礎づくりをしなければならぬという課題意識をもった。新しい時代の要求を掴み、幅広い県民の多様なニーズに応え、新時代にふさわしい文化の拠点づくりをめざしていく。

① 今何が必要かを根本的に見直すために「文化振興ビジョン策定懇談会」の設置（外部の学識経験者や専門家9名・6回開催）

② 県民参加による策定懇談会を開催。

③ 財団職員は文化振興の専門家であらねばならないという自覚の基、職員全員参加による調査研究やプラン討議、討論会、若手職員の自主的研究会も行った。
④ パブリックコメントの実施

◆ビジョンの基本的な考え方◆

1 文化権の尊重
文化を享受し、文化活動に参加し、文化的な環境の中で、生きる喜びを見出すことは、人々の願いです。文化は人間が人間らしく生きていく上で不可欠であり、誰もが平等に文化にかかわる「文化権」を尊重します。

2 施策の基本に文化を
都市の再生やまちづくり、新たな産業、雇用創出等に文化の持つ役割があり、行政が行う施策の基本に、文化的視点を置きます。

3 文化芸術に触れる機会の拡充
できるだけ多くの県民に文化芸術の鑑賞機会を増やし、幅広い県民参加を促して、豊かなコミュニケーションの場を提供します。

4 幅広い文化の尊重
様々なジャンルの文化芸術を尊重します。

5 伝統文化の継承
暮らしの中で生まれ、歌い継がれてきた民謡、語り継がれてきた民話、祭り等を継承する必要

があります。また、日本舞踊、歌舞伎、能、狂言等、日本古来の伝統文化を尊重します。

6 文化の多様性の尊重
全国各地の文化や世界の国々の文化を尊重し、多様な文化が融合し新しい文化が生まれることを期待します。

7 幅広い層の文化芸術への参加

*子どもや青少年の文化参加
子どもの頃から芸術文化に親しむ習慣が、生涯にわたる人生を豊かにします。若者自身の文化参加も重要です。また、将来文化芸術の担い手になるよう育成することも重要です。

*高齢者の文化参加

高齢者が文化活動に果たす役割は大きく、蓄積した知識、経験は新たな文化創造に生かすべきだと考えます。

*障がい者の文化参加

社会参加、リハビリ、生きがいなど障がい者にとって文化の果たす役割は重要です。アクセシビリティ環境づくりと共に、多様な個性として、障がい者の文化芸術活動を正當に評価していきます。

8 (財)千葉県文化振興財団の社会的役割

*文化会館やホールの管理運営や文化芸術活動を行う知識、技術、ノウハウの有効活用。
*千葉県全域の文化芸術振興に役割を果たし、様々な団体と連携し、新しい事業分野と事業展開を図ります。

◆推進するための体制づくり◆

1 人材の養成と確保

職場内研、外部研修、講師を招聘した研修を積極的にを行い、専門資格の取得を奨励します。

2 組織の整備

財団の能力を十分発揮し、職員個々のアイデアをいかせる組織を確立し、有識者や専門家からなる組織から助言を受けます。

3 安定した経営基盤の確立

ビジョン実行には安定した経営基盤確立が不可欠です。そのために、常に収支バランスに立つた経営戦略と財政運営が基本です。会館利用料、入場料収入の増加、新たな収入源となる新規事業の展開、各助成金制度の活用、企業協賛や寄附の拡充による増収の確保が重要です。
(文責：中村)

9月13日(月)千葉県文化振興財団に取材に伺いました。事務局長の小川和義さんと総務調整班長の石井秀樹さんが取材に応じてくださいました。お

2人ともビジョン策定にあたり中心の役割を果たしてこられた方です。文化振興のための理念に基づき、今後具体的な事業計画が創られます。事業の優先順位をつけて、このビジョンの実体化に結びつけていかれることに期待しています。また、県民と一緒に創っていただきたいと願っています。

私たちが、子どもの文化芸術に関するNPO団体としても、積極的な提案・連携・協力していければと考えています。県民にとっての拠点として、また、県内のリード館の役割を担っていらっしゃる県文化会館のこれからに期待したいと思います。

取材者

子ども劇場千葉県センター
綿貫のばら 大森智恵子 中村雪江

もっと子どもの参画を!



「子どもの問題行動調査」(文部科学省 2010年9月まとめ)によると、全国の小中高校生による暴力行為の発生は61,000件に上り過去最多を更新した。最近では単独で暴れ、低年齢化する傾向があり、そうした子どもたちは、感情の制御が利きにくく、識意が薄いという。文科省はこうして子どもたちの「問題行動」について、「家庭、地域を含めて総がかりで取り組む必要がある」と提言している。こういう報道にふれる時、子どもが暴力で自分を表現するのではなく、幼い時からさまざまな人とふれあい、安心できる雰囲気の中で、言葉によって意思疎通をする「場」、できるだけ受け身でなく、年齢に応じて「主体的に参画できる場」がもっと必要だし、もっと光をあてていきたいと感じる。

★「参画」した子どもの声

トラブルばかりで力不足!・・・だけでもこっちや楽しいからまたやりたい!

小さい子がかわいかった。協力して店番ができた(袖ヶ浦)

自分たちで考えた「流しラーメン」も、流れてきたフルーツをサイダーにつけてたべる「ポンチ」もめちゃ×2おいしかった。チャーシューは味がなく、ただの肉だった(千葉緑区)

・キャンプの班名を決めて旗をつくったり、献立を相談したり、ダンスの練習をしたり、また来年もやってみよう。(千葉Wakaba)

・幼稚園児や低学年の子が熱心にペットボトルリングなどをやっているのが嬉しかった。青年がサポートしてくれてよかった(船橋)

・リーダーとして参加したキャンプだが、正直トラブルばかりで力不足だった。もっと前に進めるよう頑張る。自分としてはめっちゃ楽しかった(白井)

・トラブルのないキャンプは存在しない。今年の反省を来年に活かしたい(成田)

・舞台監督の仕事はおもしろいから来年もやりたい。照明をほめてもらってうれしかった(八千代)

・またやりたい。人生が肥えた!(市川)

・来年はやれないが次の年は絶対に実行委員をまたやりたい(野田)

★「参画」の場におとなの声

子どもがどんどん変わっていくのはおもしろい!

子どもが考えたキャッチフレーズが「明日の学校休んじゃえー?体ポロポロになるまで遊んじゃおう!」に大人はドッキリ!チラシを全校配布するため、せめて「?」を入れて、「子どもたちに交渉」「仕方ないなあ」としびしび承知してくれて、ホッとした(佐倉)

子どもたちは「機会」があれば、アイデアを出し合い、やりたいことをみつけて、それにむかって努力するチカラがある。大変なこと楽しいこともたくさん感じて、やり遂げる体験してほしい(千葉中央)

子どもたちの純粋で自由な発想や言動には大人が見習うべきところが多く、大人の私の方が学びべきことがあった。(市川)

子どもたちは寸劇の内容を何度も繰り返し直して参加者に楽しんでもらいたい思いが伝わってきた。おとなしい印象の子が堂々と演じて「すごい!」と思った(いんざい)

・キャンプという非日常の空間で、子どもたちは楽しむために考え合う。いろんな子がいて、すごいと思ったり、ダメだと思ったり、困ったり、泣きたかったり、笑ったり、くやしかったり、きらいだったり、怒ったり。うらやましい限りです(流山)

・子どもには個々に「こだわり」があり、他の子と意見が合わない事もあったが、それを表現し、言い合える関係ができていく(成田)

・毎年参加している子どもは「ここが、あそこが昨年よりも成長した」とだんだんお兄さんお姉さんになる姿を見られることが楽しみ(千葉Wakaba)

・まわりの企画だけでなく、月1回のペースで中学生がサークル会を開き、集う場があるので、顔もみえ、安心してすなおに意見がだせた(船橋)

・当日3日間で、高学年が低学年とともに活動するうちに、どんどんスタッフとして自覚ができて、手伝ったり、見守ったり、励ましたり、と場面に応じて対応しているのには驚かされた(千葉西)

★「参画」がスムーズにいくように大人が気をつけたこと

ゆる〜い雰囲気「何か手をうたなくて」「と迷ったことも・・でも

・ハローウィンに協力してくれるお店に事前と一緒にあいさつに行った(いんざい)

・事前打ち合わせやリハーサルは時間をたっぷりとり、おとな主導にならないようにした(八千代)

・会議は夜が多く、親の応援で送り迎えをした(四街道)

・なんて中学生は忙しいのか!部活中心、職場体験もあり、話し合い、ディキャンプ、全体会とスケジュールがまっていた。担当青年と相談して進めてしまったことを終了後冷静になって反省した。(千葉緑区)

・小1から参画できる実行委員会にしたため人の意見をきかない子、意見の言えない子のサポートをした(ならしの)

・三役に対して、昨年度の資料を活用するように助言した。気づいたことは直接言わずに、三役・班長・青年から伝わるようにした。おとなは「手助けする立場」から「見守り」の立場になった。(白井)

・子どもに関わる時にはこんなことに気をつけて、という大人向けの事例をいくつかピックアップして大人全員に伝えた(市川)

・初めてキャンプ担当になった。ゆる〜い雰囲気を醸し出しているスタッフの行動に接して何か手を打たなくては思ったり、迷うことが多かった。長年関わって来られた方を訪問して、何か具体的な答えを期待したが、「たくさん悩みなさい。大丈夫!」と激励してくれた。その時、その時自分で答えをだすしかないのだと思った。(流山)

★社会が何をすればより「子どもの参画」が進むか?

「子どもにはたいしたことほできないいだらう!」なんて思わないで!

「子どもの参画」が子どもの成長に必要なという認識が定着する(成田)

・大人が与えたものを鵜呑みにさせて形にさせようとする傾向は、子どもにも参画の

気持ちさえうまくまれない。大人は参画によって求める成果は、企画の結果ではなくて経過である。腹をくむこと。(千葉西)

・子どもの気持ちがいかにのを待つ時間を(佐倉)

・大人が先回りをせず、子どもたちの「やりたいこと」や「思い」を認め、温かく見守る(白井)

・子どもが何を「まで」までできるのか、大人が機会や場を提供して、見守ることが必要。地域の大人は「子どもにはだいたいしたことはできないだろう」と手をだしすぎているのではないか(袖ヶ浦)

・子どもたちに教える・与えるだけでなく、「考えさせる」ことをさせないといけないと思う。時間がかかるし、向き合う「大人」がしっかりとしないとけない(千葉中央)

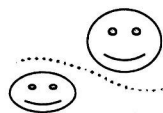
・社会が目に見える成果だけを評価するのではなく、試行錯誤したり失敗したりすることを認める寛容さが必要(八千代)

・大人が自立すること。大人が子どもを一人の人として認め、信頼すること。子どもが自由に集える居場所が要る。外で遊べる広場、トランプ、ギター、パソコン、カップ麺コーナーなどがあり、気軽に声かける大人が2、3人いる場所。(野田)

・学校でも、子どもたちだけで考え、話し合う時間を「ゆえぬこと」(佐倉)

・学校教育の中に「自分の意見をもち、人の意見を聞く」「討論しあう」「時間をつくる(千葉緑区)

・子どもが誰でも行こうと思える場が増えること。支える・見守る大人が増えること(四街道)



「子どもの参画」事例と団体一覧



団体名	活動名(活動時期)	参加数 (子/大人)		「参画」した子どもの 属性と人数	参画の 段階 ※
(特)野田子ども劇場	子どもキャンプ(2010/8)	36	9	中学生以上 11	7
(特)流山おやこ劇場	子どもキャンプ(2010/8)	15	8	小学生 6 中学生 5 それ以上 4	6
(特)市川子ども文化ステーション	子どもがつくるまち「ミニいちかわ」 実行委員会(2009/6~11)	60	12	小学生 58 中学生 5 それ以上 2	7
(特)船橋子ども劇場	春の風まつり 2010(2010/4)	67	89	中学生 10	8
(特)ならしの子どもの劇場	子どもがつくる子どものまち(2009/11)	105	75	小学生 20 中学生 0 それ以上 7	6
白井子ども劇場	子どもキャンプ(2010/8)	14	10	小学生 5 中学生 5 それ以上 4	6,7
(特)NPO佐倉子どもステーション	子どもまつり実行委員会 (2010/2~4)	15	6	幼児 1 小学生 12 中学生 2	6
(特)子どもネット八千代	八千代市民文化祭・子どもの創造表現 フェスティバル(2009/11)	195	9	幼児 5 小学生 90 中学生 20 それ以上 5	6
(特)いんざい子ども劇場	エリンギ・オブ・ザ・サ・ハロウィン～魔玉の復活 (2009/11)	30	18	中学生 2 それ以上 4	7
(特)子どもプラザ成田	子どもキャンプ(2010/8)	20	8	中学生 3 それ以上 2	6
千葉西おやこ劇場	キャンプ(2010/8)	9	14	小学生 8 それ以上 1	6,7,8
(特)こどもユニットWakaba	こどもキャンプ(2010/8)	11	9	小学生 3 中学生 1 それ以上 7	6
(特)緑区子どもサポートセンター	子どもキャンプ(2010/8)	14	9	中学生 8 それ以上 2	6
(特)千葉中央おやこ劇場	おやこまつり(2010/3)	39	21	小学生 6 中学生 2 それ以上 2	6
	おやこキャンプ(2010/7)	14	14	幼児 3 小学生 11	4
	子どもキャンプ(2010/8)	12	15	小学生 4 中学生 6 それ以上 7	7
(特)四街道こどもネットワーク	子どもキャンプ(2010/8)	13	14	小学生 9 中学生 2 それ以上 2	4
(特)子ども一ぶ袖ヶ浦	サークル主催なつまつり(2010/8)	30	20	幼児 2 小学生 7	4

※「参画の段階」とは

ロジャー・ハート著「子どもの参画」で、はしごの階段として表現されているもの。1~3は「非参画」とされ、4~8が「参画」とされている。「はしごの上段に行くほど、子どもが主体的に関わる程度が大きいことを示す。しかし、これは、必ずしも彼らの能力を出し切った状態で活動すべきことを意味しているのではない。おとなのファシリテーターは、子どもたちのグループが自分たちの選んだどのレベルでも活動できるようにするためのものである」とロジャー・ハートは書いている。

- 1 あやつり参画
- 2 お飾り参画
- 3 形だけの参画
- 4 子どもは仕事を割り当てられるが、情報は与えられている
- 5 子どもが大人から意見を求められ、情報を与えられる
- 6 大人がしかけ、子どもと一緒に決定する
- 7 子どもが主体的にとりかかり、子どもが指揮する
- 8 子どもが主体的にとりかかり、大人と一緒に決定する



8月27日(金)第1回子ども文化地域コーディネーター養成講座が開催されました。

開催にあたり、プレ講座の中で、自分の身近な地域はどんなところか、地域の課題は何か、話し合ってみました。

地域のあんな話、こんな話

- ◆小・中学校とも、子どもの数が激減している。中学校は87名。小学校の各学年1クラス。
- ◆高齢者と退職した人が多くなり、自分の町会は2世帯は稀。子どもが超少ない。子どもは大事にしている町会だと思う。小・中学校とも子どもの様子は分らなくなった。シニア世代に期待。
- ◆高齢化の進んだ地域で、シニアが元気。自治会による夜の防犯パトロールも児童の登下校の安全パトロールもほとんどシニアの方々。社会福祉協議会の活動が活発で、集会所で学習会、映画会、交流会など定期的に行われている。
- ◆町会(10軒)の班長をしていて、会費集めや新一年生・卒業生に記念品や赤飯を届けたり、65歳以上の独居老人を確認したりで、町内は把握できている。病院の友の会(健康でつながる会)があり、立ち話で情報収集できている。関係が網の目のようになっているが、子どもはそこから洩れている。
- ◆高齢者と若い人をつなぐ役割が自分たちにはあると思っている。青少年健全育成協議会ではできるだけ若い人を入れようとしている。自分がイキイキしていた時期がなつかしい。
- ◆団地のスーパーや銀行が撤退。すし店、肉屋 酒屋 米屋 薬局 文房具店が閉じた。買い物は坂を上ったスーパーマーケットに行く。
- ◆貯水池を自治会で持っているの、強制加入。けれども、隣のアパートや近隣での問題(DVや精神不安定等)は自治会でも解決より排除しようとしている。そのような問題の学習会があっても良いと思う。
- ◆今住んでいるのはマンションで建ててから15年自治会と管理組合がある。入居当初はあいさつしたが、いまは関らない。仕事と家庭でいっぱいいっぱい同じ世代と付き合いが他は違和感がある。管理人さんや宅配ボックス利用などで近所の人と関ることがない。関らなくても困ることがないからかも。
- ◆マンションが建ち並んでいる。新しく大きなマンション内のキッズルームに住民ではない子どもがやって来て遊び、けんかになって、住民から苦情が出たため、そこで遊ばないようにという通達が小学校から出されている。
- ◆小学校が第2・第4土曜日に体育館を開放していても利用者は少ない。管理されたところへは行くが、何もなくて遊ぶということがなくなっている。
- ◆人口急増で小・中学校とも新設した。娘のときは中学校が荒れていたが、今はどうい状況なのか、小・中学校の様子が見えない。元気な子どもがいないのかなあ。
- ◆名札をつけるのは小学校の中だけ。安全のためとはいえ、それでは地域の人におぼえてもらえない。地域で子育てしづらくなっているのではないか。
- ◆1,000人規模の小学校は学童ホームに通う子どもが増加中。
- ◆市は働くお母さんのために保育園を作っている。親が子どもといる時間が減ってくるのが気になる。
- ◆働いている人がサークル会に来られない。
- ◆主任児童委員をしている。学校で連絡会議があるが情報は出てこない。学校は児童の状況が把握できていない。
- ◆子ども会はあるけど、スポーツや習い事優先。子どもにがんばらせているし、親子とも忙しくしている。

NPOの日普及イベント

NPO 啓発 PR 用

リーフレット配布団体募集

12月1日(NPOの日)、県内NPO(市民団体)が、NPO活動をPRするリーフレットを県内のJR主要駅などで配布します。リーフレットを配布していただける団体を募集します！

(配布予定駅) 千葉駅、津田沼駅、船橋駅、西船橋駅、本八幡駅、市川駅、佐倉駅、四街道駅、成田駅、五井駅、木更津駅、館山駅、安房鴨川駅、大原駅、上総一ノ宮駅、茂原駅、大網駅、東金駅、成東駅、銚子駅、松戸駅、柏駅、我孫子駅、北小金駅

募集期間:7月1日(木)~10月29日(金)第1次募集

NPOのガイドで千葉をもっと楽しもう

県民ウォーク

歴史、観光、自然、健康、街歩きなどを目的に県民を対象に県内16ヵ所で一斉にNPOガイドと一緒に、ウォーキングを行います。

佐倉市(2か所)・南房総市・印西市・船橋市(2か所)・栄町我孫子市・富津市・酒々井町・香取市・八街市・市原市 鴨川市・館山市(2か所)

実施日:12月4日(土) 悪天の時は5日(日)

参加費:500円(大人のみ・別途実費の場合あり)

『ありがとう』

—0・1・2・3歳のための“はじめてのおしばい”千葉でのうれしい出会い!!—

人形劇団プーク 早川百合子



私の舞台活動の場は、通常、新宿南口に位置するプーク人形劇場です。「あら どこだ」(0・1・2・3歳のための“はじめてのおしばい”作品)は、2007年夏に初演。その年5ステージのみの公演で、人形たちは、ここのアトリエ倉庫に静かに仕舞われていました。ところが、本年9月に2週間限定で3年ぶりに「あらどこだ」の再演が決まり、首都圏の9劇場・13ステージで上演しました。3年前に産声をあげたこの作品はそこに至るまで7年の年月を要しました。創るきっかけになったのは、私の住む東村山の子ども劇場の方から背中を押していただいたこと、もうひとつ、いつか人形劇にと温めていた神沢利子さんの同名の詩集を再び手にしたとき、目の前に0～3歳のこどもたちが、キラキラ輝く目で私をみつめる絵が……。なんの根拠もなく、まだ、なにひとつ具体的に動いていないのに……。そして、9つの詩に音楽と美術が形になるにつれ、早くみてほしい(こわいけど!)。それが3年前のこと。

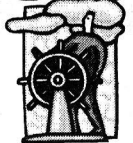
今回、トランクのふたを開くと人形たちの嬉しそうなこと。もちろん私も。稽古2日でいざ本番。もう楽しくて、嬉しくて劇団(アンサンブル)に感謝。13ステージの出逢いにはひとつとして同じものはなく、毎回何が起きるかわからないワクワク、ドキドキ。確かな事は演じてる私が観てくださっている母子、父子から多くのパワーをいただいたこと。このシリーズで40年芝居をしてきた私の初体験を紹介してペンをおきましょう。

それは、子ども劇場千葉県センター主催でのこと。2歳になるかならない男の子が芝居はじまってすぐにトコトコ会場を歩いては様々な角度から人形をみるのです。映像ではない生の舞台から感じる空気、空間を肌で身体でみているかのよう。結局、彼とセッションしつつの上演でした。これには正直ハラハラものでしたが無事終演。そして、カーテンコール。なんと、その彼が私にスタンディングオベーション。その拍手する姿に大きな大きな力をもらいました。ありがとう。

NPOではたらく人

『ユースがNPOでカツドウする/ハタラク!?!』

NPO 法人こばてい—子ども参画イニシアティブ 理事長 小熊 浩典



「こばてい」は、松戸市を中心に活動する子ども・若者(ユース)の参画を推進するNPOです。主に、小学生～20代を対象に、年齢や学校が違う子ども～ユースの異年齢交流の機会や、やりたいことを実現するための場を提供しています。具体的には、第3土曜日に小学生を対象にした外遊びの場「あそぼう会」を中学生以上と共に開いたり、選挙に合わせて、実際の候補者に投票する未成年模擬選挙「はちみつ選挙」に取り組んだりと様々な活動をしています。

「NPOではたらく人」というテーマ、実は非常に悩みました。というのも、今「こばてい」のスタッフは、学生か、他の職業につきながらボランティアとして関わっています。私自身もコンピュータ関連の会社につきながら平日・土日の空いた時間で関わっているし、多くのメンバーはフルタイムで働いているので、平日夜や土日に活動に参加しています。一方で、企業・行政との連携の局面では、平日日中の動きが求められ、動くメンバーが限定されてしまうことが運営上の課題となっています。

ほとんどの若者は自立した生活をしたいと考えています。自分自身も一人暮らしをしたかったし(実家を出て3年になります)、人によってはファッション・車・旅行などが挙がるでしょう。

あと恋愛も(お金かかりますよね)。子どもと関わる職業を考えたときに、学校、幼・保、塾、テーマパークあたりが選択肢になる一方、NPOが「働いて生活できる場」を提供出来ているのは、一部のプレイパークなどかなり限られた場面だと思います。休日ボランティアでは曜日や頻度面で限界があるのも確かです。

今「こばてい」では、11月の子どもフェスティバルに向けて高校生・学生のボランティアと共に企画を立てています。参加者数百名と、当日ボランティアの中学生以上100名ほどが、どんな遊びをしたら一緒に遊べて仲良くなれるのか。11回目を迎える取組ですが毎年真剣に週1以上のペースで準備を進めています。毎年、多くの子どもたち・家族とユースボランティアの笑顔が生まれます。サポートの仕方に悩みながらも、同世代だからわかること、うまく手伝える場面を、日々実感しているところです。

どうやったら、「青年」世代が自律的・継続的に参加・運営できるのか、これからも「こばてい」では模索し続けますが、読者の皆さんも一緒に考えていただければと思います。お互い協力して、子どもたちのために活動を届けましょう!

入院中の子どもたちにアートの贈り物

子ども文化最前線

～笑顔の輪が波のように広がっていったね！～

夢まるふぁんど助成「病氣と向き合う子どもが笑顔になる贈り物」事業 千葉県こども病院で実施

日時：2010年8月25日（水）4階東病棟プレイルーム 14:10～14:45 1階外来ホール 16:15～17:00

演目：「ともしびパネルシアターコンサート」ともしび音楽企画 主催：特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター

参加者：4階東病棟 子ども 6人・保護者 5人・病院スタッフ 12人

1階外来ホール 子ども約50人・保護者約50人・病院スタッフ約30人・劇団関係者2人・スタッフ4人

副看護部長さんのお話から

こども・家族支援室の川上副看護部長が中心に関わり、なるべく多くの入院中の子どもに届けたいこと、ひとりでもさみしい思いをしないようにしたいと話してくださいました。また、家族、特にきょうだいと一緒に楽しい時間を過ごしてほしいという思いから、夏休み中の1階の外来ホールでの実施を希望されました。作品は、ともしび音楽企画のコンサート。少人数でもホールでも柔軟に対応でき、一緒に歌いあえる空間をつくってくれる「パネルシアターコンサート」に決まりました。出演者はナメちゃん（メゾソプラノ）とたち（アコーディオン伴奏）のおふたりです。

プレイルームでアットホームな公演



当日はまず、プレイルームでの公演が行われました。パネルを立てかけたところが舞台となり、目の前に子どもたち。たちのアコーディオンでコンサートが始まりました。病室から出られない乳児が、お母さんに抱っこされてガラス越しに興味深そうに見ており、お母さんにもこにこしながら指さして話しかけていました。点滴をしている子どもたちも徐々にコンサートに集中している様子です。ナメちゃんの呼びかけにだんだんと大きな声が返ってきました。

ナメちゃんのうたでみんなが笑顔に

ナメちゃんがお尻ふりふりで歌う「まあるいたまご」はあまりのかわいらしさに、みんなで吹き出してしまうほどでした。何度か点滴などで中断している子も、すぐナメちゃんの方に視線が戻って集中していました。その子は治療のためドクターやお母さんと一緒に途中で退席となり、「これからがんばろうね」とドクターが話しかけていました。子どもたちだけでなく病院スタッフも「お誕生日のうた」などで笑いながら手を上げたり、拍手をしたりし、とても盛り上がりました。ボランティアで長く関わっている方も子どもたちとともにノリノリで参加し、お母さんたちも終始笑顔でした。手話を交えながら「小さな世界」をみんなで歌うと、会場全体が一体となり、楽しさに包まれました。

広い外来ホールでダイナミックな公演

外来ホールでの公演には、幼児から大人までたくさんの方が集まってくれました。中には、ベッドに寝たままの子、点滴をしながら車椅子の子、酸素ボンベを抱えた子もいました。ホールへ移動する途中でナメちゃんの姿を見つけ、

「あっ、ナメちゃんだ！」「まだ間に合う？」という子どもたちに「だいじょうぶだよ！」とナメちゃん。子どもたちがポスターや招待状で楽しみに待っていてくれたことがわかり、ナメちゃんはすごく励まされ、嬉しかったそうです。

さて、本番

ざわついた会場がナメちゃんの張りのある澄んだ、よく通る歌声で、しんとしました。4階のプレイルームでの静かなやさしい歌声とは全く違う、吹き抜けの大きなホールいっばいに響き渡る素晴らしい歌声です。声を出すことができない子どもの表情が、ぱあっと明るくなりました。家族で観ている参加者も多く、子どもの傍らでお父さん、お母さんも楽しそうに口ずさんでいました。「アメージンググレイス」の曲を、お母さんが目をつむってじっと聴いていました。車いすやベッドの子どもと同じ目の高さで寄り添う病院スタッフも、楽しそうに話しかけたり歌ったりして子どもたちと一緒に音楽を楽しんでいる様子がとても印象的でした。

ほっとする笑顔の輪があちこちに広がって

ナメちゃんの歌声とアコーディオンの音色が会場の空気を和ませ、子どもたちの表情を生き生きとさせてくれました。最後にボランティアの方に参加してもらおうと、子どもたちから声援が出ました。一緒に手話で歌い、広い会場にも一体感が生まれました。

みんなの心をひとつにする生の音楽の力、そして、どの子どもにも舞台芸術との出会いをつくる必要性を実感したコンサートでした。（リポート 笠原直子）

コンサートの感想から

- ・まっくろ君にいろいろな動物が出てきたり、たまごの中からたくさん生まれてきたから次は何が出てくるかドキドキした。アコーディオンが上手だった（9歳・男）
- ・ひよこの歌もミッキーの歌も楽しかった。おもしろかったです（4歳・女）
- ・たくさんのお友達と一緒に歌を歌ったり、音楽を聞いた気が変わってとてもいいと思う。大きな声を出して笑ったり、体を動かすことができ楽しい時間を過ごすことで、これからはがんばれる気がすると思う（母親）
- ・闘病ばかりではなく、日常の生活が病棟にあるのと同様に時々楽しいことがあると気分転換になると思います。（医師）
- ・実際に公演中の子どもたちや保護者の姿を見ると、みんな笑顔で楽しんでいる様子が見て取れた。日常では、つらい処置が多い分、非日常の楽しい出来事は余計、楽しい経験として心に残り支えになると思う（保育士）

編集後記

この夏、娘が結婚しました。私は、29年の間に一緒にすごしてきた時間の中で、娘に何を伝えることができたのでしょうか。これから彼女がどんな家庭を築き（もし母となったとしたら）どんな子育てをしていくのかを見守っていくのは楽しみでもあり、心配でもあります。私自身「こんなとき母はどうするのだろう、なんて言うだろう」と事あるごとに問にかけて歩んできたように、娘もまた私のしてきたことをたどりながらやっていくのでしょうか。本当に子育ての結果が出るのはこれからなのだと思身の引き締まる思いです。（K. M）

